

令和7年度

# 「運営に関する計画」

大阪市立生江小学校

令和8年3月

## 大阪市立生江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

**現状と課題**

大阪市学力経年調査において、各学年のほとんどの教科で対全国比が1を上回り、全国学力・学習状況調査においても、対市比と対全国比とも上回る結果であった。全国体力・運動能力、運動習慣等調査においては、多くの種目で全国平均を上回る結果であった。年々児童数の減少とそれに伴う教員数が減少している中、きめ細やかな指導と主体的に活動させる学習や行事を通して、特色ある教育活動を展開してきた結果、学力面だけではなく生活指導面でも、課題が改善されてきた。

課題として、基本的な生活習慣に課題を抱える児童の割合が高く、不登校児童の数が増加している。また、学力の格差が顕著になり、きめこまやかな「個に応じた指導」を必要とする児童の割合も多くなっており、インクルーシブ教育の充実とともに、全体的な学力の底上げのためには、ICT機器等を活用した多様な学びの工夫が必要である。すべての児童が粘り強く課題に取り組み、達成感をつかめるような指導をめざし、課題の解決に向けた研修等を積み重ねていきたい。

**中期目標****【安全・安心な教育の推進】**

○本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらい SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を30%以下にする。 **R6 : 45% R7 : 43.4% (大阪市小学校学力経年調査)**

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

**R6 : 0% (0人/6人) R7 : 40% (2人/5人)**

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、100%にする。

**R6 : 98.8% R7 : 97.7%**

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、いずれの学年も1.00以上にする。

**R6 : 国語 3年生 1.15、4年生 1.02、5年生 0.98**

**R7 : 国語 3年生 1.03、4年生 1.00、5年生 1.11、6年生 0.92**

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、いずれの学年も1.06以上にする。

**R6 : 算数 3年生 1.17、4年生 1.07、5年生 1.05**

**R7 : 算数 3年生 0.98、4年生 1.14、5年生 1.28、6年生 0.98**

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。 **R6 : 96.3% R7 : 90.2%**

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を98%以上にする。 **R6 : 97.6% R7 : 93.7%**

○小学校学力経年調査の児童質問紙における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を90%以上とする。

**R6 : 83.3% R7 : 83.6%**

**【学びを支える教育環境の充実】**

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。 **R6 : 81.8% R7 : 73.0% (1月)**

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を87%以上にする。 **R6 : 80.0% R7 : 86.7% (1月)**

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 **R6 : 82.7% R7 : 80.7%**

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○大阪市学力経年調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらい SNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3 時間以上と回答する児童の割合を 44%以下にする。

**R6 : 45%    R7 : 43.4%**

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

**R6 : 0% (0人/6人)    R7 : 40% (2人/5人)**

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、99%以上にする。

**R6 : 98.8%    R7 : 97.7%**

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

**R6:国語                                    3年生 1.15、4年生 1.02、5年生 0.98**

**R7:国語   3年生 1.03、4年生 1.00、5年生 1.11、6年生 0.92**

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。

**R6:算数                                    3年生 1.17、4年生 1.07、5年生 1.05**

**R7:算数   3年生 0.98、4年生 1.14、5年生 1.28、6年生 0.98**

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 97%以上にする。

**R6 : 96.3%    R7 : 90.2%**

○小学校学力経年調査の児童質問紙における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 84%以上とする。

**R6 : 83.3%    R7 : 83.6%**

○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。

**R6 : 86%    R7 : 83%**

### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 82%以上にする。

**R6 : 81.8%    R7 : 73.0% (1月)**

○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教員の割合を 87%以上にする。

**R6 : 80.0%    R7 : 86.7% (1月)**

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を 21%以下にする。

**R6 : 21.8%    R7 : 4.0%**

### 3 本年度の自己評価結果の総括

昨年度と同様、これまで積み重ねてきた本校の教育活動の成果が見られたと考える。

大阪市学力経年調査において、ほとんどの学年の教科で大阪市平均を超え、一部の学年はすべての教科で全国平均を上回る平均正答率であった。全国体力・運動能力、運動習慣等調査においても、多くの種目で全国平均を上回る数値が出た。人数が少ないながらも本校教職員の指導と児童の努力が結果としてあらわされたと考える。

年々児童数の減少とそれに伴う教員数が減少している中、きめ細やかな指導と主体的に活動させる学習や行事を通して、特色ある教育活動を展開してきた。

今年度もさまざまな教育活動に取り組むことができた。人権集会、全校遠足、校外学習等のこれまでの行事や運動会については保護者も参加できる形で行うことができた。

こうした取組等を、学校・学年だよりや学校ホームページを活用し、効果的に情報発信して、家庭や地域との連携を強めていくことができたと考えている。

大きな課題として、学習はもとより、基本的な生活習慣を身につけることにおいて課題を抱える児童の割合は依然として高く、すべての児童が粘り強く課題に取り組み、達成感をつかめるような指導をめざし、工夫を重ねていく必要がある。そのために、保護者へスマートフォン等の使用についての啓発と家庭・地域連携や各教職員の授業力・指導力の向上と個々の長所が発揮できる学校運営をめざしていきたい。

また、それぞれが自らの課題を明確にして、スキルアップしていくために、学校としてもさまざまな課題の解決に向けた研修等を積み重ねていく必要がある。

次年度も、これまで積み重ねてきた実践を大切にしながら、より豊かな教育活動を推進していきたい。

## 大阪市立生江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○大阪市学力経年調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を44%以下にする。</p> <p><b>R6: 45% R7: 43.4%</b></p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p><b>R6: 0% (0人/6人) R7: 40% (2人/5人)</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を、99%以上にする。</p> <p><b>R6: 98.8% R7: 97.7%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学部制をベースとし、きめ細やかな指導と情報共有を行うことにより、問題行動等の未然防止、早期発見に努めるとともに、関係諸機関との連携を充実させ、適切な指導・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部会や職員朝会、職員会議や児童理解の場などで生活指導についての共通理解を図り、ケースに応じて学部や関係する教職員で対策を講じ、解決をめざす。</li> <li>・児童の情報や指導したことを児童理解フォルダに記録として残すことで、教職員全体で情報の共有を図る。</li> <li>・毎月いじめ対策委員会を行い、学校全体で速やかに事実の確認を行うとともに、適切に指導を行う。</li> <li>・「いじめについて考える日」には、道徳等でいじめに関する内容を取り扱い全員でいじめについて考えるようにする。</li> </ul> <p>指標 保護者アンケートの「学校は、子どものことを理解するよう努めている」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。</p> <p><b>R6: 54% R7: 62%</b></p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <p>学校及び学年の実態に即した人権教育を推進し、励ましあい、高めあえる集団の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育や仲間づくりなどをテーマに、児童の実態に合わせた取組を実践し、その内容を人権集会で発表する。</li> <li>・年間計画に沿って、平和学習や部落問題学習、在日外国人に関わる学習などを各学年の児童の実態に合わせて実践する。</li> </ul> <p>指標 保護者アンケートの「学校は、子どもに命や人権を尊重する態度を育てるよ</p>	B

<p>「<b>う取り組んでいる</b>」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。 <b>R6 : 56% R7 : 61%</b></p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】  <b>多様な体験活動を通じ、児童が自身の成長を自己評価し、主体的に学びに向かうことができるよう指導する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方やゲストティーチャーと連携し、昔遊びやまち探検、防災訓練など多様な体験活動を実施する。</li> <li>・児童の学びが効果的になるように、社会見学などの校外学習や各教科の学習における体験活動を充実させる。</li> <li>・取組後に振り返りの時間を設定し、自分の学びを自己評価できるようにする。</li> <li>・生江小学校のきまり（スマートフォンの使い方やゲームの時間等）についての啓発プリントを配付したり出前授業をしたりする。</li> </ul>	B
<p>指標 学力経年調査の児童質問紙の「<b>ふだん（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、インターネットを使って、動画を見たり、ゲームやSNSなどをしたりしますか。</b>」の項目について、「<b>3時間以上</b>」の回答の割合を、40%以下とする。 <b>R6 : 45% R7 : 43.4%</b></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①教職員と保護者との連携を密に行うことができていたが、一部、学校の意図がうまく伝わっていない部分がある。</p> <p>②人権集会をしているが、人権という言葉が児童や保護者が理解できていないように感じる。発表に副題をつけるなど工夫する必要がある。</p> <p>③昔遊びやまち探検、防災訓練、社会見学など多様な体験活動を実施することができた。今後も内容を精査し、さらに充実を図る。  インターネット等に関する出前授業を保護者も参観できるようにして実施したが、参加は0人であった。今後も家庭を巻き込んだ取組を続けていく必要がある。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①HP や学校だより等を通して情報発信し、保護者が学校の活動を知ることができるようにしていく。また、学校の体制が変わるため、職員間の連携を更に密にしていく。</p> <p>②1学期は学級目標・学級歌、2学期は各学年で取り組んだ人権学習を発表する。その際、持ち時間を長くしたり、ICT活用や劇化したり、台本を見て読ませたりするなど人権集会の見せ方を工夫していく。また、動画配信は行わない。</p> <p>③指標を「児童・保護者にインターネットについての出前授業を年に1回以上行う」等の指標に変更していくようにする。  保護者に意識もらえるような取組（学年だより、学校だより、手紙等）をしていく。また、旭区で作成しているような明確なルールを学校で検討する。</p>	

## 大阪市立生江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p><b>R6:国語 3年生 1.15、4年生 1.02、5年生 0.98</b></p> <p><b>R7:国語 3年生 1.03、4年生 1.00、5年生 1.11、6年生 0.92</b></p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p><b>R6:算数 3年生 1.17、4年生 1.07、5年生 1.05</b></p> <p><b>R7:算数 3年生 0.98、4年生 1.14、5年生 1.28、6年生 0.98</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を97%以上にする。 <b>R6:96.3% R7:90.2%</b></p> <p>○小学校学力経年調査の児童質問紙における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を84%以上とする。 <b>R6:83.3% R7:83.6%</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 <b>R6:86% R7:83%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>専科指導や入り込みの指導を効果的に実施し、基礎基本の定着、個に応じた指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習でデジタルドリルを活用するなど、基礎基本の定着を図る取組を進める。</li> <li>・授業アンケート等に基づいて指導方法の工夫を重ね、個に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>	A
<p>指標 保護者アンケートの「学校は、授業がわかりやすくなるよう工夫している」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。</p> <p><b>R6:47% R7:55%</b></p>	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>対話や交流等の協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり、広げたりする力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋道立てて考える力を養い、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるよう、指導の充実を進める。</li> <li>・ハンドサインを用いて、発表や交流の活性化を図る。</li> <li>・聞き方、話し方についての掲示物等を活用する。</li> </ul>	C

<p>指標 生活アンケートの「話し合う活動は好きですか」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。 <b>R6 : 80% R7 : 68%</b></p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】  <b>中学校との接続を意識した指導を行い、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の総合的な育成を図る。</b>  ・週に2回のモジュール活動を充実させ、児童が英語に慣れ親しむことをめざす。  ・C-NETや専科教員と連携した学習において、多様な体験活動を取り入れる。</p>	C
<p>指標 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を前年度と同水準以上とする。  <b>R6 : 80% R7 : 66.8%</b></p>	
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】  <b>体力テスト等の結果もふまえ、体育の授業や体育的取組を工夫し、児童の体力向上への意識を高める。</b>  ・休憩時のみんな遊びやなわとび週間、かけあし週間等を活用し、体力向上への意識を高める。  ・体育科の授業の導入において、年間を通して新体力テストの記録向上につながる運動に取り組むなど、体力づくりに関する取組を進める。</p>	B
<p>指標 生活アンケートの「外に出て遊ぶことが好きですか。」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。 <b>R6 : 77% R7 : 78%</b></p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】  <b>児童が規則正しい生活習慣が身につけることができるよう、健康に関する指導や食育の充実を図る。</b>  ・栄養指導、給食カレンダーや食育だよりなどを通し、食べ物の働きを知り、バランスよく食べることの意識を高めることができるよう指導する。  ・保健給食週間や歯みがき指導を通じて、歯の健康の大切さを知らせ、正しい歯みがきの仕方を意識づけ、習慣化するように指導する。また、家庭への啓発も進める。  ・学期に1回の保健給食週間を通し、食育や健康教育の充実を図る。  ・情報発信を通して家庭との連携を深め、食育や規則正しい生活習慣の確立に向けた指導に取り組む。</p>	B
<p>指標 生活アンケートの「給食の後に、歯磨きをしていますか。」の項目について、最も肯定的な回答の割合を、前年度と同水準以上とする。  <b>R6 : 80% R7 : 76%</b></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①専科指導のおかげで、負担軽減につながり、個に応じた指導ができた。デジタルドリルも、学年によって活用できている面があるが、使いづらい部分もある。授業内容や、児童の興味を引き出すためにいろいろな工夫をした結果が、児童を通じて保護者に伝わっていると予想される。</p> <p>②ハンドサインの掲示物や、話し方・聞き方についての指導は行っているが、児童数の減少に伴い話し合う活動が難しくなっている学年もある。</p> <p>③C-NETや専科教員と連携した学習を行うことで、系統立てて、学年のつながりも意識しながら指導ができた。</p> <p>④強調週間として、休み時間に外に出る機会を増やし、自然と児童が外で遊ぶ環境をつく</p>	

ることができた。また、竹馬や一輪車など、一部設備・備品を更新し、児童が外で遊ぶ環境を整えることができた。

- ⑤栄養指導や保健給食週間、歯みがき指導を通じて、歯の健康の大切さを知らせ、正しい歯みがきの仕方を意識づけ、習慣化するように取り組んだが、給食の量が多い学年もあり、給食を時間内に食べ終われず、歯磨きがおろそかになっている児童が一部いた。

#### 次年度への改善点

- ①Kahoot!や AI で作成したアプリなどを活用した学習ツールを活用し、より個に応じた指導ができるよう取り組んでいく。
- ②どのように話し合い活動をするのか研究等で考え、多様な考えをもったり、話し合ってみたいと思えたりするような発問の工夫をする必要がある。
- ③引き続き、体験活動を通して、英語に触れる、話す、聞くことをきちんと授業時間内で取り入れていく。
- ④スポーツ週間などを通じて、引き続き休み時間の遊びの種類を増やす取組を行う。さらなる体力向上につなげるよう、竹馬や一輪車等の遊具も活用していきたい。
- ⑤学部や近隣学年で方針を合わせて、正しい量の給食の提供と時間内に食べ終わるように指導することや、給食後の過ごし方を指導し続けていく必要がある。  
給食準備でナフキンを置く際に、歯磨きセットも机に置き、歯磨きの意識付けをする。

(様式2)

## 大阪市立生江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の82%以上にする。 <b>R6: 81.8% R7: 73.0% (1月)</b></p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を87%以上にする。 <b>R6: 80.0% R7: 86.7% (1月)</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を21%以下にする。 <b>R6: 21.8% R7: 17.4%</b></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DXの推進】</p> <p>ICT機器の活用を効果的に進め、子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間にデジタルドリルを活用し、当該学年で学習している単元や昨年度の経年テストで大阪市の課題となっている単元等の学習に取り組む。</li> <li>毎日2回(朝の会と帰りの会の時など)、こころの天気の入力を徹底させる。</li> </ul> <p>指標 生活アンケートの「学習者用端末を毎日活用できていますか」の項目において、肯定的な回答の割合を94%以上にする。 <b>R6: 93% R7: 100%</b></p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、教職員が持てる能力を存分に発揮することができる職場環境の実現をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週1回「ゆとりの日」を設定し、効率よく業務を行う意識を高める。</li> <li>一部の教職員に業務量が偏りすぎないように、それぞれの校務分掌・委員会における取組等の企画・検討を綿密に行う。</li> <li>放課後に行う会議や研修の日などには、年間標準授業時数の範囲内で、流動的に校時を変更し、勤務内に仕事が終わるように努める。</li> </ul> <p>指標 教員の一人当たりの月あたりの平均時間外勤務時間が前年度を下回るようにする。 <b>R6: 18時間23分 R7: 17時間52分(1月)</b></p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにすることができる読書活動の実現をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館司書と連携をとり、学年に応じた書物の選定やお昼の読み聞かせなどをしてもらったり、放送・図書委員会による読書啓発の取組を行ったりして児童</li> </ul>	B

<p>の読書活動の意欲・関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室を毎週活用するとともに、読書記録をつけ、読書に対しての充実感を養う。</li> </ul>	
<p>指標 生活アンケートの「読書は好きですか」の項目において、肯定的な回答の割合を84%以上にする。 <b>R6 : 83%</b> <b>R7 : 90%</b></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①学習者用端末を活用し朝の学習ドリルや、毎日の「こころの天気」は習慣化しているが、「入力すること」だけが目的となっていたため、集まったデータをもとに児童が学びを深められるような、一歩進んだ活用が課題である。</p> <p>家庭での充電忘れや学校への持参忘れの児童が一部にいた。</p> <p>現行のドリルだけでは全児童の学習レベルを網羅できない。</p> <p>②業務の効率化の意識は高まっているが、次年度以降の教職員数減少を見据え、全員で協力して業務を分担する姿勢がさらに重要となる。</p> <p>専科の授業時間を事務仕事に充てているが、トラブル対応に追われるケースがあった。</p> <p>他校と比較して極端に長時間ではないが、一部の教員に仕事が偏っていた。</p> <p>「ゆとりの日」を設定しても、急な会議やトラブルで予定通りに進まないことがあった。</p> <p>③委員会による啓発活動や図書ボランティアさんによる読み聞かせ、図書館司書による図書室の蔵書充実により、児童が本に触れる機会が増え、読書への関心が高まった。</p> <p>毎週の図書の時間のほか、学級文庫を充実させたり教室で本を紹介したりすることで、児童が自然に本を手にする環境ができつつある。</p> <p>学習内容に関連する本を教室に置いたことで、興味の持続と読書量の増加につながった。</p>	
<p>中間評価への改善点</p>	
<p>①「こころの天気」を教職員が児童の状態を把握するだけでなく、児童自身が気持ちの変化を振り返る（メタ認知）の手段として活用を深める。また、低学年では入力タイミングを固定し、声掛けなしで自律的に行えるよう習慣化をめざす。</p> <p>デジタルドリル以外にも、Canva や Kahoot!などを授業や家庭で活用させる。また、全国学力・学習状況調査に備え、タイピング練習（らっこたん）等を計画的に進める。</p> <p>「タブレット漬け」を防ぐために家庭での使い方のルールを共有しつつ、自宅での有効活用についてさらに研究を進める。</p> <p>給食を早く食べ終わった児童の過ごし方として、読書やらっこたん（タイピング練習）を行うなど、活動を統一して落ち着いた環境を整える</p> <p>②勤務時間が長く月の月間行事や取組を精査し、時間外労働の削減を具体的に図る。</p> <p>会議は16時半までに終わる意識を徹底し、発言の簡略化に努める。また、提出書類の締切と重ならないよう日程を調整する。</p> <p>特定の教員に業務が偏らないよう副主任を置くなど、部会内での協力を徹底する。次年度の複式学級導入に伴い、児童の情報共有や専科指導、学級経営方針について教職員間で密に連携する。</p> <p>③単なる貸し出し業務に留めず、低学年への季節に合わせた読み聞かせや、新刊本の紹介活動をさらに強化する。</p> <p>児童数の減少により図書委員会の啓発活動が困難になっている現状を踏まえ、読書週間などの行事の在り方を工夫する。</p>	